国　語　思考を深め，ねらいとする言語能力を育成するための指導のポイント

文章や談話について，言葉の意味や働き，使い方などの側面から総合的に思考・判断して理解したり表現したりしたことを，対話を通して違う視点から改めて捉え直したり，吟味したりする学習過程を工夫することが，児童生徒の思考を深め，ねらいとする言語能力を身に付けさせる上で重要です。

＜ポイント１＞
本時のねらいと学習指導要領の指導事項を整合させ，ねらいとする言語能力を発揮している児童生徒の状況を具体的に想定して，教材研究や授業構想を行う。

＜ポイント２＞
児童生徒が，どの言葉の，どのような意味や働き，使い方に着目すれば課題を解決できるのかを見通して粘り強く取り組むことができるよう，学習課題や学習過程を工夫する。

＜ポイント３＞
児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握し，ねらいにつながる記述や発言を意図的に取り上げ，その根拠や理由の違いに着目して話し合えるように，思考を促す発問をする。

【指導例】（「平成２９年度全国学力・学習状況調査」中学校国語Ａ－8を参考にして考えられる発問の例）

＜ねらい＞　文章に表れているものの見方や考え方を捉え，交流を通して自分のものの見方や考え方を広くすることができる。　（中学校第１学年　Ｃオ）

祖母　　三好達治

祖母は蛍をかきあつめて
桃の実のように合せた掌（て）の中から
沢山な蛍をくれるのだ
祖母は月光をかきあつめて
桃の実のように合せた掌の中から
沢山な月光をくれるのだ

木村　私はこの詩に出てくる祖母は優しい感じがします。
石川　私も同じです。「沢山な」，「くれるのだ」という表現から，孫を思う優しさが伝わってきます。木村さんは，どの表現から優しいと感じたのですか。
木村　私は「桃の実のように合せた掌」という例えを使った表現から，蛍を大事に手で包み込み，そっと孫に手渡そうとする様子が伝わってきたので，優しいと感じました。

（発問例）なるほど。今，「桃の実のように合せた掌」という比喩を用いた表現が挙げられましたが，どうして「手」ではなく「掌」なのでしょう？

吉田　「掌」は合掌の「掌」のことで，“てのひら”を合わせた形を桃の実に例えて，膨らみや柔らかさをイメージさせ，祖母の優しさや愛情を表しているのだと思います。
小林　「掌」は，祖母が仏に掌を合わせて，闇を優しく照らす蛍や月の光のような慈悲の心を伝えてくれるということを表現していて，祖母の信心深さを感じさせます。

国語科の学習では，登場人物の気持ち等を考えて終わるのではなく，言葉そのものを様々な面から問い直すことで，児童生徒が思いや考えを深め，それを支える語彙を豊かに習得することが大切です。
そして，国語科の学習は「言葉についての学習」であることを，教師が意識して指導するとともに，児童生徒が意識して学習できるようにすることが大切です。